

# Gala Concert

ガラコンサート  
～弦楽合奏の愉しみ～ 2023  
Program

## I. L.v.ベートーヴェン：自作主題による15の変奏曲とフーガ 変ホ長調 Op.35

### ◆ピアノ：神原 雅治

ベートーヴェンの変奏曲の中でも、晩年の「ディアベリ変奏曲」と人気を二分しています。この変奏曲の主題は、この曲以外にも『オーケストラのための12のコントラダンス』、バレエ音楽「プロメテウスの創造物」、交響曲第3番「英雄」終楽章にも使われており、「エロイカ変奏曲」や「プロメテウス変奏曲」という愛称で呼ばれることもあります。主題提示の前に序奏がおかれたり、最終変奏の後にフーガでフィナーレを締めくくったりと、当時としては珍しい形で書かれており、バロック時代の形式を思い起こさせます。

## II. F.J.ハイドン：ピアノ三重奏曲 第39番 ト長調 Hob.X V:25

### リスト・フェレンツ・トリオ ◆ピアノ：和田 さやか ◆ヴァイオリン：西尾 恵子 ◆チェロ：唐沢 安岐奈

ハイドンのピアノ三重奏曲の中で最もよく取り上げられる曲で、通称「ジプシー」と呼ばれています。名前の由来は、第3楽章に出てくるジプシー調の旋律によるものです。第1楽章は主題と4つの変奏からなっており、ピアノの優しく語りかけるような主題で始まります。第2楽章は緩徐楽章で、ゆったりした楽想で流れていきます。第3楽章は打って変わって活気あふれる音楽で始まり、ジプシー風の哀愁を感じる楽想をはさんで、最後は華やかなコダで終わります。

## III. J.ブラームス：ピアノ五重奏曲 ヘ短調 Op.34 第1楽章

### ◆チェロ：古川 展生 ◆ピアノ：和田 さやか ◆ヴァイオリン：伊藤 怜子 梅田 真叶 ◆ヴィオラ：中村 紫音

当初、弦楽五重奏曲として書かれ初演されましたが、満足できる評価が得られなかったこともあり、「2台ピアノのためのソナタ」に書き換えました。さらに周囲の助言を受け入れて「ピアノ五重奏曲」に書き直され、このジャンルを代表する名作となりました。第1楽章は暗さの中にも力強さと威厳が感じられ、ブラームスらしい緻密な構成により緊迫感に満ちた音楽が演奏されます。今回の演奏会の第1部の最後を飾るように、最後は情熱的に締めくくられます。

## 休憩

## IV. ジョヴァンニ・ソツリマ：アローン

### ◆チェロ：古川 展生

ソツリマはイタリア・シチリア州の州都パレルモ出身のチェロ奏者兼作曲家です。中世から続く音楽一家の家系に生まれ、作曲家兼ピアニストの父親の影響で、幅広い音楽性を身に付けました。独特な演奏スタイルと、異国を感じさせる旋法的な旋律が特徴で民族音楽やロック、ジャズ等まで幅広い音楽の素材を取り入れた作風で知られる作品は「鬼才」と呼ばれるにふさわしいものです。超絶技巧を取り入れチェロの可能性を存分に広げたソツリマの作品は、現代のチェロ奏者の金字塔となっています。本日は、その中から「アローン」という無伴奏チェロの作品をお届けします。

## V. B.バルトーク：ルーマニア民俗舞曲 Sz.56

### ◆ヴァイオリン：西尾 恵子 伊藤 怜子 梅田 真叶 ◆ヴィオラ：中村 紫音 横山 千紘 玉置 菜々子

### ◆チェロ：古川 展生 山元 里佳 ◆コントラバス：山崎 桂奈

原曲はピアノのために書かれた6曲からなる小品で、当時ハンガリー領だったトランシルヴァニア地方のルーマニア民謡を元にしています。今回は、この演奏会の編成のために編曲をしていただきました。

- 第1曲 ジョク・ク・バータ(棒の踊り)：各節の終わりに、杖で地をつくような音(リズム)が聴こえます。
- 第2曲 ブラウル(腹帯の踊り)：トロンタル県の農民の踊り。軽快なリズムで奏されます。
- 第3曲 ベ・ロック(踏み踊り)：脱穀の労働歌が起源。増2度の進行が物寂しさを誘います。
- 第4曲 プチュメアーナ(プチュム人の踊り)：ゆったりした舞曲で抒情的な旋律が流れます。
- 第5曲 ポアルカ・ロマネアスカ(ルーマニア風ポルカ)：3拍子2小節+2拍子1小節のリズムパターンで書かれています。
- 第6曲 マヌツェル(急速な踊り)：2種類の舞曲がつながっています。後半、テンポやリズムが勢いを増して、華やかにクライマックスを迎えます。

## VI. A.ヴィヴァルディ：2台のチェロのための協奏曲 ト短調 RV.531

### ◆チェロ(ソロ)：古川 展生 唐沢 安岐奈 ◆第1ヴァイオリン：西尾 恵子 伊藤 怜子 ◆第2ヴァイオリン：梅田 真叶 横山 千紘

### ◆ヴィオラ：中村 紫音 玉置 菜々子 ◆チェロ：山元 里佳 ◆コントラバス：山崎 桂奈 ◆チェンバロ：田口 利康

ヴィヴァルディの「二重協奏曲」の中の1曲で、2台のチェロのために書かれたのは、この曲だけです。チェロらしい堂々とした風格の第1楽章。ラルゴでゆったりと2台のチェロが哀愁漂う音楽を奏でる第2楽章。第3楽章は合奏のシンクペーションの主題で始まり、それを受けてチェロが軽快な旋律を演奏し、最後はトゥッティで締めくくられます。

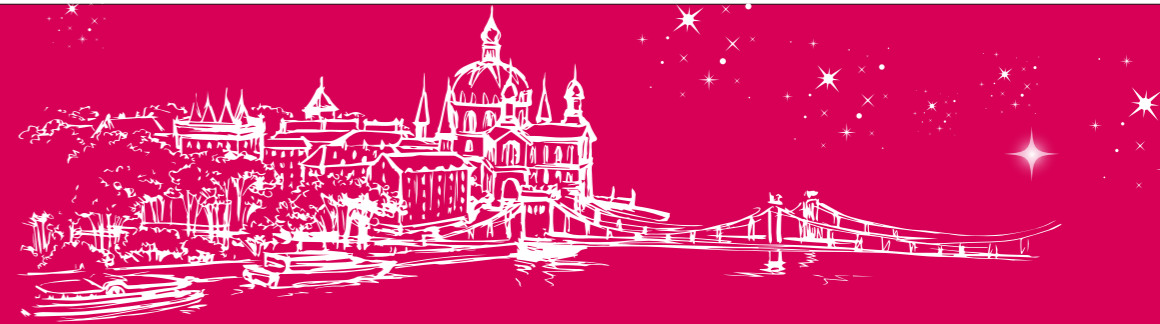
## VII. J.S.バッハ：ブランデンブルク協奏曲 第3番 ト長調 BWV1048

### ◆ヴァイオリン：西尾 恵子 伊藤 怜子 梅田 真叶 ◆ヴィオラ：中村 紫音 横山 千紘 玉置 菜々子

### ◆チェロ：古川 展生 唐沢 安岐奈 山元 里佳 ◆コントラバス：山崎 桂奈 ◆チェンバロ：神原 雅治

この曲集はブランデンブルクの領主に献上されたことから「ブランデンブルク協奏曲」と呼ばれています。バロックを代表する器楽形式「コンチェルト・グロッソ」で書かれていますが、この種の作品の中で最も優れた作品と言えます。本日は6曲の中から、弦楽器のみで演奏される第3番をお届けします。第3番は独奏楽器群と合奏楽器群の区別はありません。ヴァイオリン3、ヴィオラ3、チェロ3の9声部の対位法で書かれています。各楽器が互いにかいけあい、または一つのバッセージを引き継ぎながら合奏します。第1楽章はリズムカルで踊りだしそうな楽しい雰囲気を感じられます。第2楽章は即興風に演奏され、第3楽章は疾走感があり、クライマックスへと駆け抜けていきます。

## PROFILE



## 古川 展生(チェロ)

桐朋学園大学卒業。1995年第64回日本音楽コンクールチェロ部門第2位入賞。1996年、ハンガリーのリスト音楽院に留学。1998年帰国後、東京都交響楽団首席チェロ奏者に就任。現在に至る。また、各地においてソロリサイタル、国内外の著名演奏家との共演など室内楽の活動も精力的に展開。2020年にはJ.S.バッハ無伴奏チェロ組曲全曲演奏会(東京・大阪)に出演、絶賛を浴びた。また、ポプス、ジャズ、タンゴなど他ジャンルのアーティストとのコラボレーションも積極的に行い、藤原道山(尺八)、妹尾武(ピアノ)とのユニット「KOBUDŌ -古武道-」は2017年に結成10周年を迎えた。幅広いフィールドで目覚ましい活動を続け、人気、実力ともに各方面より注目を集めている。2003年第2回齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞、2004年京都芸術祭特別賞、2011年第31回藤堂顕一郎音楽奨励賞、2013年第31回京都府文化賞受賞。昭和音楽大学客員教授、桐朋学園大学非常勤講師。

オフィシャルサイト: www.nobuofurukawa.com

## リスト・フェレンツ・トリオ



### 和田 さやか(ピアノ)

洗足学園音楽大学音楽部器楽専攻ピアノ科卒業。同専攻科を修了。ハンガリー国立リスト音楽院ディプロマコース修了、及びM.A.取得。1999年~2001年、ハンガリー政府給費奨学生。第9回神奈川音楽コンクールシニア部門にて第2位、第3回リスト・バルトーク国際コンクール特別賞受賞をはじめ、国内外のコンクールに入賞。天皇皇后両陛下ハンガリー御来訪の際、御前演奏。ソロ・室内楽両分野において、日本、及びヨーロッパにおいて活動している。現在、洗足学園音楽大学講師、Muzsikalisce主宰、PTNA(全日本ピアノ指導者協会)正会員。



### 西尾 恵子(ヴァイオリン)

東京藝術大学を経て同大学院修了後、ハンガリー政府給費生としてリスト音楽院に留学。ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団に第一ヴァイオリン奏者として在籍後、兵庫県立芸術文化センター管弦楽団にファウシュペラーとして在籍。京都市立京都堀川音楽高等学校非常勤講師。現在、神戸市室内管弦楽団コンサートマスター、千葉交響楽団契約首席ヴァイオリン奏者。日本各地のオーケストラでゲストコンサートマスターとしても活躍している。



### 唐沢 安岐奈(チェロ)

名古屋市立菊里高校音楽科、東京藝術大学を経て同大学院修了。ハンガリー国立リスト音楽院留学。文化庁派遣芸術家在外研修員としてミュンヘンに留学。現代音楽室内楽コンクール第1位、東京国際音楽コンクール室内楽部門第2位、第66回日本音楽コンクール入選。これまでに東京交響楽団、名古屋フィルハーモニー管弦楽団、セントラル愛知交響楽団と共演する他、全国でソロ・室内楽等で活躍中。現在、読売日本交響楽団に在籍。



### 神原 雅治(ピアノ)

ピアノピアノコンペティション・G級金賞併せて東京都知事賞とヒノキ賞、福田靖子賞選考会第2位、特級銅賞受賞、全日本学生音楽コンクール第73回高校生部の全国大会第1位、第8回仙台国際音楽コンクール審査員奨励賞受賞、第4回ハンス・フォン・ビューロー国際コンクール・プロフェッショナル部門第3位。名古屋音楽大学・ピアノ演奏家コース(4年間継続特待生)3年。2022年山田貞夫音楽財団奨学生、22/23年folkwang芸術大学にてヘンリー・ジークフリードソン氏に師事。現在は関本昌平氏、清水皇樹氏に師事。



### 伊藤 怜子(ヴァイオリン)

東京藝術大学附属高等学校を経て、東京藝術大学在学中。全日本学生音楽コンクール名古屋大会、ブルクハルト国際音楽コンクール、岐阜国際音楽コンクール、日本クラシック音楽コンクール第一位又は(最高位)、グリムミー国際音楽コンクール第2位(ベルギー)、国際音楽祭NIPPON2022マスタークラス受講。中部フィルハーモニー、NHK交響楽団のメンバーで構成されたハマのJACKオーケストラと共演。東京藝術大学4年在学中。徳永二男、漆原朝子、松原勝也、白石禮子の各氏に師事。



### 梅田 真叶(ヴァイオリン)

京都市立京都堀川音楽高等学校、愛知県立芸術大学を経て、東京音楽大学大学院音楽研究科修士課程を修了。第70回全日本学生音楽コンクール高校の部名古屋大会入選。第4回刈谷国際音楽コンクール弦楽器部門一般の部奨励賞受賞。市川市文化振興財団第34回新人演奏家コンクール弦楽器部門優秀賞。2019年度公益財団法人青山音楽財団奨学生。2021年度東京音楽大学大学院甲種奨学生。これまでに、花井晶子、進藤真弓、高橋律也、池川章子、白石禮子、フェデリコ・アゴ스티ーニ、大谷康子、海野義雄各氏に師事。現在は演奏活動に取り組む傍ら、後進の指導にもあたっている。



### 中村 紫音(ヴィオラ)

岐阜県出身。愛知県立明和高校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部卒業。桐朋学園大学カレッジディプロマコースヴァイオリン専攻、在学中。第36回子供のためのヴァイオリンコンクール金賞、中日新聞社賞。市川市文化復興財団第35回新人演奏家コンクール優秀賞。岐阜国際音楽コンクール第3位。ヴィオラを鈴木康浩氏に、ヴァイオリンを古田央吾、市川絵理子、清水高師、篠崎功子、各氏に師事。



### 横山 千紘(ヴァイオリン、ヴィオラ)

岐阜県各務原市出身。県立加納高校音楽科を経て、現在名古屋音楽大学4年に在学中。2022、23年京都フランス音楽アカデミーにてレジスバスキエ氏のレッスンを受講。第13回岐阜国際音楽コンクール弦楽器部門大学生の部第1位、ぎふ・リスト音楽院マスターコース2023にてサバティ・ヴィルモシュ氏のレッスンを受講。受講生選抜者によるコンサートに出演。これまでに、長谷川敏子、後藤晴生、岩崎能子、後藤龍伸、古井麻美子の各氏に師事。



### 玉置 菜々子(ヴィオラ)

4歳よりヴァイオリンを始める。2010年レオ・フィリップ氏のレッスン受講。'11年豊田市ユニアオーケストラ入団。現在OG。'11年 第33回子供のためのヴァイオリンコンクール 銀賞。'13年 第35回子供のためのヴァイオリンコンクール 銀賞。'15年 水野佐知香氏の公開レッスン受講。レオニード・ソコロフ氏のマスタークラス受講。第18回若い芽のコンサート 出演。第1回豊田ヴァイオリンコンクール金賞。'22年 第18回東海音楽フェスティバル金賞。'23年 第13回岐阜国際音楽コンクール第1位。第2回東京国際管弦楽コンクール準本選通過。同朋高校 音楽科を経て、名古屋音楽大学に在学中。これまでに、永田真理子、森下園子、古井麻美子、福本泰之の各氏に師事。



### 山元 里佳(チェロ)

岐阜県岐阜市出身。3歳よりチェロをはじめ。岐阜県立加納高等学校音楽科を経て、愛知県立芸術大学音楽学部卒業。2018年ぎふ・リスト音楽院マスターコースにてオンツァイ・チャバ氏の公開レッスンを受講し、受講生選抜者によるコンサートに出演。2021年大学の学内選抜により「室内楽の夕べ」に出演。これまでにチェロを故久保田頭、廣岡直城、故大味恵理子、松井美佳、野村友紀、花崎薫の各氏に師事。



### 田口 利康(チェンバロ)

岐阜県立加納高等学校音楽科を経て、東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。第24回PTNAピアノコンペティションC級中部日本本選第2位受賞。あしながおじさん賞受賞。第25回PTNAピアノコンペティションD級中部日本本選優秀賞、ヤマハ賞受賞。第3回ジュラ・キシュビア国際コンクール第3位受賞。第24回宝塚ベガ音楽コンクール入選。現在、岐阜県の高校教諭として後進の指導にあたる。



### 賛助出演

#### 山崎 桂奈(コントラバス)

大垣女子短期大学ウィンドアンサンブルコース卒業。愛知県立芸術大学音楽学部弦楽器コース卒業。同大学研究生修了。第7回響科音楽コンクールin 東京弦楽器部門入賞。第26回日本クラシック音楽コンクールコントラバス部門5位。Pacific Music Festival in

SAPPORO、小澤征爾音楽塾青少年のためのオペラ参加。名古屋を中心に東海地区にてオーケストラ、室内楽の演奏活動を行うほか後進の師事にもあたっている。